

令和5年度学校関係者評価協議会報告書

学校法人東洋学園
東洋学園高等専修学校

東洋学園高等専修学校は、下記日時に『学校関係者評価協議会』を開催いたしました。協議会では、協議・意見交流を行ない以下の意見と評価がありました事を報告いたします。今後は、この意見等を受け止め改善に努めてまいります。

1. 名 称 東洋学園高等専修学校 学校関係者評価協議会
2. 目 的
 - ・ 学校教育自己診断アンケート調査結果の客観性・透明性を高める。
 - ・ 学校・家庭・地域が共通理解を持ち、その連携協力により学校運営の改善に当たる。
3. 日 時 令和5年 9月25日(月) 18:00~19:00
4. 場 所 東洋学園高等専修学校 102教室
5. 委員一覧

	所 属	役 職 等
1	大阪市立小学校	校 長
2	寝屋川市立中学校	校 長
3	長尾谷高等学校	教 頭
4	関西福祉科学大学	准 教 授
5	大阪国際大学	入試・広報部 課 長
6	森小路 京かい道商店会	会 長
7	株式会社 アワヤ	取 締 役
9	東洋学園同窓会	会 長

6. 議 案

1. 報告・協議

- ① 学校概要について（生徒就学状況等）
- ② 生徒指導・教務・進路指導 各部より報告
- ③ 令和4年度学校教育自己診断アンケート結果報告
- ④ 意見交流

7. 議 事

1. 報告・協議

- ① 教頭から本校教育活動概要、各学年在籍者数の報告。1年 55名、2年 51名、3年 40名、全学年 146名 男子生徒 62名、女子生徒 84名 各学年クラス編成 2クラス。

在籍生との出身中学校の分布を提示。大阪北部・京阪電車沿線の中学校よりの在籍生徒が多い状況となっており、大阪メトロ谷町線沿線の南部地域からの入学者数を増加させることが生徒募集においての課題となっている。

令和4年度入学生から総合ビジネス科、一括入学。2年生からコース選択制を導入。福祉、ファッション、きもの、情報、総合の5コース制。新型コロナウイルス感染症の影響もなく、授業は予定通り、休校もなく実施。課題を抱える生徒が多い中、退学に結びつかないように粘り強く指導している状況を説明。

土曜日学習の充実（第1、3、5土曜）、学び直し、コミュニケーション能力向上に力を入れて取り組む状況を説明。本校の行事の取り組み、「七夕笹配り・夏祭り」では、地域の関係づくりを大切に協力した取り組みを行っている旨を説明。感染症対策に取り組みながら行事を実施。1学期は予定通り開催。

4月 入学式「守口エナジーホール」、1年生・宿泊研修「淡路島」

5月 3年生・修学旅行「北海道4泊5日」、6月 宝塚歌劇鑑賞

7月 ボウリング大会、2年生・介護職員初任者研修課程の開講～2月

9月 のスポーツ記録会・球技大会は10月 24日 スポーツ記録会、
25日 球技大会「RACTABドーム」

11月 5日 東洋祭「文化祭」、22日 校外学習「USJ」

- ② 生徒指導部長から、令和4年度生徒指導規定による処分件数と内容について報告。地域と連携した行事の取り組みについて報告。生徒の傾向と状況説明では、家庭環境、外国籍生徒の状況報告。学校と地域の連携について、七夕行事や京かい道商店街の夏祭り参加の報告。地域清掃活動を各学期1回から、月2回ほど実施。参加生徒については完全自由参加であったが、初回から10名の参加。地域の方々からお礼やお褒めの言葉を頂くことでやりがいとなっている。

教務部長から、新課程における生徒のコース選択状況などを報告。また、不登校・長期欠席生徒への支援の取組と概要を説明。教員の授業力向上の為、授業力向上委員会の設置とその目的、取り組み内容を報告。

進路指導部長から、令和4年度の進路報告と今年度の進学・就職共に試験がスタートした旨と、令和4年度卒業生の進学先・就職先の報告。令和4年度中の合計求人企業数と求人数、進路指導部としての年間計画と各学年における設定目標などを報告。

③ 令和4年度学校教育自己診断アンケート分析結果報告（副校長）

＜生徒アンケートより＞

学校生活全般における満足度は学年が上がるごとに増加する傾向があり、学校生活における肯定的な意見は80%を超える項目が多数あった。一方で2年生においては3の項目でC・D評価の回答割合が43%にも上り、校舎間移動や勉強に臨む姿勢が持てない生徒への指導という部分が課題である。15の項目では3年生が100%の割合でA・B評価となっており、今後も生徒がそのように感じる事ができる学校教育を目指していきたい。

＜保護者アンケートより＞

質問項目のほとんどで80%～90%程度の肯定的回答である一方で、1の質問項目で1年生が30%程度でC・D評価であった。学校が生徒にとって居心地のよい環境となるよう引き続き全教職員で対応にあたる必要を感じている。

＜教員アンケートより＞

教員の育成や、研修結果の発表という部分で課題がある。OJTも含め今後も手法を模索する。また、同じような質問項目があり項目数の削減を来年度は実現する。

④ 意見交流

- 各委員からの学校教育自己診断アンケート結果に対する意見まとめ

『生徒アンケート』

- 学年が上がるにつれて学校に対しての肯定的なA・B評価が増えている。丁寧に対応されていることが伺える。
- 例年ではあるが2年生の評価が悪い点が気になる。
- 生徒とのコミュニケーションを重視していることが読み取れる数字となっている。

- 例年3年生の評価は高い。継続して対応してきていることが結実しているように思う。
- キャリア教育において満足度が高い点が見受けられる。また、楽しいという項目が高いことは重要である。

『保護者アンケート』

- 生徒アンケートと比較して同様の項目でも少し評価が低いように感じる。
- 生徒と教員の関係性を表す項目で評価が高い点は良い。保護者も学校への理解を示している点を読み取れる。

『教員アンケート』

- 生徒や保護者とコミュニケーションが取れていることが数値からはうかがえるが、教員間のコミュニケーションや連携に使える時間が少ないのではないかと思う。
- 研修成果の発表などの機会が持てていないことなどは時間的に先生方に余裕がないのではないか。
- 教職員など、内部の満足度を上げるための取組が必要な数値が読み取れる。
- 研修や自己研鑽の時間が取れるような対応が必要に思う。

8. まとめ

校長より

教育活動では一人ひとりをより深いところから理解することに努め、個々に寄り添う形で取り組んでいきます。生徒一人ひとりを大切にしながら、粘り強く、あきらめず、生徒とつき合いながら生徒の成長を目指します。

そして、東洋学園の新たな歴史を刻むためにも、今回の指摘を改善して、生徒・保護者・地域の皆さまから理解され応援していただける学園づくりに努めてまいります。